

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 8 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890400124
事業所名 (ユニット名)	グループホームきららハウスアイリス 1階
記入者(管理者) 氏名	青木 大介
自己評価作成日	令和 3年 6月 29日

<p>【事業所理念】 人としていつも通りをこの場所で</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 (初回調査)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 昨年4月に開設された2階建ての新しい事業所は、利用者や来訪者を気持ち良く出迎えてくれる。事業所から防波堤越しに海の景色が見え、利用者や職員、来訪者の癒しとなっている。事業所近くの防波堤沿いが利用者の散歩コースで、地域住民と一緒に話しながら歩くなど、ふれあいの場としても活用されている。また、事業所には管理者を含め、地元に住んでいる職員もおり、地域の奉仕作業や災害時にも協力し合える関係性ができている。さらに、管理者と職員は丸となって、理念にもある「利用者がついものとおりの、この場所で生活できるよう」支援している事業所である。</p>
------------------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>入居時に面談を行い、本人、家族からの基本情報や趣味、これまでの暮らしを聞き意向の把握に努めている。ケアプラン更新時にも、本人、家族の意向を確認している。</p> <p>まず、本人に理由を聞く。それでもわからない時は表情や行動から読み取ることとしている。</p> <p>本人より訴えがあった時には、家族に電話で本人の思いについて話し合っている。</p> <p>個人記録(介護ソフト)に発言された内容などを記入し、業務日誌のラベルにチェックを入れ、業務日誌に表示されるようにして共有化している。</p> <p>ユニット会での話し合いで個別に本人の生活について話し合いを行っている。</p>	○	/	○	<p>入居前に、計画作成者とユニットリーダーが自宅や施設などに出向いて利用者や家族等と面談し、希望や意向を聞いている。また、散歩時に、「コーヒーが毎日飲みたい」と話される利用者もおり、日々の支援の中でも職員は確認をしている。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p>	<p>入居時に事前面談を行い、家族、本人から今までの暮らし方について聞き取り、生活歴についてもシートに記入している。</p> <p>個人記録に本人の心身の状態を記録している。</p> <p>睡眠不足、便秘、脱水など、体調面を排泄表や水分のチェック表で確認したり、介護ソフトでの個人記録入力で申し送りの欄にチェックを入れ、表示されるようにし、共有している。</p> <p>日々の言動は、個人記録に残している。時間帯や頻度を観察して、要員は何かの把握に努めている。</p> <p>個人記録に記録し、朝、夕の申し送りにて把握に努めている。</p>	/	/	○	<p>入居前に、計画作成者とユニットリーダーが自宅や施設などに出向いて、これまでの暮らし方や現状などを把握し、アセスメントシートなどに記録している。また、以前の施設や在宅担当の介護支援専門員からも情報を聞き、アセスメント表を提供してもらうこともあり、職員は分からないところの確認をしている。現在のコロナ禍において、ご家族に対しては必要時に電話にて確認したり、プランの意向確認の際などに聞き取りしている。事業所では面会制限を設けているため、知人や友人などから聞き取りをするまでには至っていない。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p>	<p>日々の情報をもとに、本人が何を求めているか検討している。家族の支援が必要な場合は電話にて連絡をしている。</p> <p>本人の有する能力に応じて、調理手伝い、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、を行えるように、準備、見守りの支援をしている。</p> <p>本人の気持ち、意向を聞きながら、支援を行っている。家族の支援が必要な場合は電話にて連絡をしている。</p>	/	/	○	<p>利用者や家族、関係者から聞き取りした情報を基にして、出勤している職員でカンファレンスを行い、利用者本人の視点でのサービス提供を検討している。また、検討した内容は、利用者や家族に確認をしている。</p>

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向に沿ってプランを作成している。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人やご家族から聞いた事をもとに、それぞれの意見を反映し、特記事項やカンファレンスの記録を参考にして作成するようにしている。	○		○	事前に、事業所では利用者や家族から「ケアのあり方」について確認し、各ユニットの職員で話し合いをしている。家族からは、「認知機能の低下を防いで欲しい」「自宅で野菜を作っていたので、野菜を作らせてほしい」などの意見や要望が出され、意見を反映した介護計画を作成している。また、作成した介護計画は、家族に説明のうえ配付している。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活歴を参考にしたりご家族から情報を聞き慣れ親しんだ暮らし方が出来るよう支援している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の支援が必要な時は、協力していただけるように計画をしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画をファイルにまとめたものと、一覧表にしたものをスタッフコーナーに置いている。それを確認しながら、日々のケアを行っている。				○
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護計画をファイルにまとめたものと、一覧表にしたものをスタッフコーナーに置いている。それを確認しながら、日々のケアを行っている。個人記録に記録し、ケアプランのラベルを付けている。				○
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人記録に具体的に言葉、しぐさ、行動などを記入している。				△
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個人記録に入居者の生活の様子、身体の状態を記入している。気づきや工夫等の共有は個人記録に入力しているが、量としては少ない。				△
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画書は期間に応じて見直しをし、入院等で状況が変わった時にはその都度見直しを行う予定。				○
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	状況に変化がみられない場合には現状のプラン内容で継続している。				○
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入居者さんの状態に変化が生じた場合には介護計画書の見直しをする。				○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的にはホーム会議、ユニット会議を行っている。緊急案件がある場合はその都度会議を開催している。				○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	事前に次第を用意して、活発な意見交換ができるように意見を前向きにとらえる工夫をしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	ホーム会議を第4週の水曜日に固定し、職員が参加しやすいように工夫している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	スタッフ会開催後は議事録を配布し、不明な点については直接説明するようにしている。				○
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	介護ソフトから抽出される業務日誌でその日の情報伝達は行えるようにしている。確認した職員は押印するしくみをつくっている。				○
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	入居者の情報は個人記録と業務日誌に記録している。さらに、口頭で伝える。何日も続くような業務連絡は介護ソフトのスタッフ連絡記録している。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の意向や、その日の様子を見て把握の努力をし、職員の勤務や状況を考えてそれを叶える努力をしている	/	/	/	水分補給の飲み物やお弁当を注文時、移動スーパー来訪時など、事業所では、様々な場面で利用者が自己決定できる機会を設けている。男性利用者が、「ゴミが重いやろ」と職員に声をかけながらゴミ出しを手伝ったり、率先して味噌汁づくりや米とぎなどをしたりすることもあり、その都度職員から「ありがとう」「助かります」などの感謝の意を伝えると、利用者の笑顔になる場面が見られる。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴後の服などを選んでいただくなど、自己決定する機会や場面を作っている。	/	/	/		◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	入居者が思いや希望を表せるように、ゆっくりとかかわりを持てるように意識している。上着などはハンガーにかけており、着る服を自己決定できるようにしている。	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	就寝は本人のタイミングで行っていただいている。入浴も長くつかりたい方に対しては健康状態を考慮して、ぬるめのお湯で10分つかるなど支援をしている。就寝前にバナナを食べる習慣のある方には、十分な見守りの上提供している。	/	/	/		/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	洗濯物たたみや、日々の食事作り、食器洗い、等を手伝っていただき、うるおい等を引き出す雰囲気づくりをしている。	/	/	/		/	○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	主訴から少しずれた訴えに対してうまく対応できないことがあったが、訴えられた言葉から一つ一つ丁寧に考え、本人の意向に沿うようにしている。	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	入社時の研修や身体拘束適正化委員会で虐待や身体拘束は人権侵害であることを意識するようになっている。	/	/	/	◎ ◎ ○		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	職員が焦ってしまったり、危険なことがあった時には声が大きくなってしまいう事もある。	/	/	/	△		
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時や入浴時にはプライバシーに配慮して扉を開めるなど注意出来ている。	/	/	/	/		
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室するときは、声掛けをしてからにしている。見守りが必要な時など以外は不必要に居室の扉を開けっぱなしにしないように配慮している。	/	/	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	就業規則内の服務規律にも記載しており、日々の業務内でも個人情報の取り扱いには注意している。	/	/	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	洗濯物たたみ、食事作り、食器洗いなどしていただき、助けていただいている。終了後は感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	/		
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	寂しさや不安を感じられている入居者がおられると、入居者同士が優しい声掛けをしているのが良く見られる。	/	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	会話に整合性がとれなくなり、トラブルになりそうときは職員が間に入り、気持ちよく会話ができるようにしている。寂しさを感じておられる入居者に対しても、世話役の入居者が手を握って声掛けされている場面もみられる。	/	/	/	/		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	場所の移動や仲介をしている。また、話題を変える、作業提供をするなど別のところに気がそれるようトラブルになる前に一時的に距離を置くなどしている。	/	/	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入居前には事前面談を行っています。又、日々の会話で話題にしたり面会の際にご家族様からお聞きする事もある。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居時の面談で聞き取りをおこなっているが、地元が近い入居者でない入居者のなじみの場所の把握は出来ていない。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族の協力があり、自宅へ一時帰宅や外泊はある。職員の介助でもコロナウイルス対策をしながら、これまで大切にしてきた場所へ行く支援を行った。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	現在、コロナ対策のため、面会していただけるかたはご家族に限られているが、面会制限が解除されたときには、気軽に立ち寄れる場所にしていきたい。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	海岸沿いの散歩を行っている。入居者が固定されてしまわないように声掛けを行っているが、あまり外に出れていない入居者もおられる。	△	○	○	日中は、全て利用者がホールに出て過ごし、多くの利用者は事業所近くの防波堤沿いの散歩を日課としている。移動スーパーの来訪があった場合には、利用者も一緒に駐車場等に出て、買い物を楽しんでいる。また、プランターを活用して野菜の栽培をしている利用者もいる。さらに、外出時のみ車いすを使用している利用者があるほか、外に出ることが少ない利用者にも、天気の良い日は外に出て、外気浴をしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナウイルスの影響もあり、ボランティアの協力での外出支援は出来ていない。コロナウイルス対策をしながらレクでの外出を行っている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子での散歩を行っている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	現在、2名 コロナウイルス対策をしながら、本人の希望に沿って外出支援した。これからも続けていく。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の理解を深めるようにホーム会議で少しずつ話をしたりしているが、理解度は経験年数などによってまちまちで十分とは言えない状態。				外出時に、玄関にある靴箱から自分の靴を取ってもらうなど、職員は利用者自身ができることやできそうなことの見守りをしている。訪問調査日の昼食後には、自分の席で足挙げ体操や指折り体操を、自発的に取り組んでいる利用者の様子を見ることができた。また、事業所では、毎日の散歩やラジオ体操を取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日のラジオ体操、排泄は出来る限りトイレで行う。廊下の歩行訓練、屋外の散歩・家事手伝いなど生活の流れの中で維持向上できるように努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動できるようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	台所に入っただき、野菜を切ったり、座位でも、自席で玉ねぎの皮をむいていただくように場面づくりをしている。 食器洗いもしていただいている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	息子様や娘様にご飯をつくっていたという生活歴があり、今でも、ご飯を作るのが自分の役割だと思われている方がおり、調理の手伝いをさせていただいている。				日常的に、ゴミ出しやモップかけ、草引き、新聞取り、調理の下ごしらえなどの家事作業を、利用者一人ひとりができることをしている。また、利用者にも楽しみのある生活が送れるよう、コロナ禍の収束後には、事業所として、夏祭りなどの地域行事に利用者と一緒に参加して行くことを考えている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	座位でたまねぎの皮をむいていただく、ラジオ体操時に体は動かしにくくても号令をかけていただくなど役割、出番をつくっている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナウイルスの影響で様々な行事が自粛となっているが、夏祭り、秋祭りなど、参加していきたい。				

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	化粧水を使用されている方もおられる。思い入れのある時計や、アクセサリをされている。				夜間はパジャマで過ごし、日中には利用者が普段着に着替えられるよう、職員は見守りや支援をしている。男性利用者は、自ら電動髭剃を使用できている。パーマをかけたい利用者は、移動美容室の利用することもある。また、散髪は、美容師資格を持っている職員が行い、整容を整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	入居時に使われていたものを持ち込み頂けるように声掛けしている。居室にもハンガーをかけ、上着などの自己決定が出来るようになっている。腕時計を入居者と一緒に購入したこともある。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	温度調節できるように、季節に合った服装をアドバイスしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時には気候に合わせたり、夏場でも冷房が効いていそうな場所に出かけるときは、上着を用意するなど、支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れている時には適宜更衣するようにしている。髭についても自分で剃れる方は剃っていただくように声掛けを行っている。				
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	美容師の資格を持つ、職員が髪を切っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	現在、重度な方はおられないが、本人らしい髪形や服装をしていただきたいと思う。				
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は楽しみの一つとしてまた、栄養補給のため口から食べる事の大切さを考えながら食事形態等に配慮している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	もやしの根切り、玉ねぎの皮むき、材料を切る、お膳拭き、テーブル拭き、食器洗いなどしていただいている。買い物や献立は入居者とともにには行っていない。						
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	もやしの根切り、玉ねぎの皮むき、材料を切る、お膳拭き、テーブル拭き、食器洗いなどしていただいている。お手伝いをさせていただいた後には必ず、感謝の言葉を伝えるようにしている。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーは入居前に確認している。好き嫌いについては、情報収集しているものもあれば、提供して分かってくるものもある。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	献立は季節感ができるように、土用の丑の日には鰻を提供したり工夫している。						
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々に合わせた食事形態で対応している。盛り付け方法も料理に合った、食器の選定など工夫はしている。						
g	茶碗や湯呑み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	茶碗や湯呑み、箸は使い慣れたものを入居時に持ってきていただいている。が入居者全員は出来ていない。						
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食は職員も一緒に食べている。現在はコロナウイルス感染予防の為、同じテーブルでは食事をしていない。誤嚥や食事の様子などに注意し食べこぼした場合はサポートは行っている。						
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	フロアからは音や匂いはもちろんのこと、作っている様子も見えるので、雰囲気作りは出来ている。						
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	入居者の体重の増減に合わせて、食事量の調節をしている。水分摂取量は、3食の他に、9時、15時やその間の時間にも細かく摂取していただき、チェック表を用いて、一日トータル1?摂取出来るようにしている。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ご本人が好む飲み物を探している。スポーツドリンクが良いという方もおられる。水が良いという方もおられる。回数も3食の他に、水分補給するタイミングを増やしている。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは受けていない。偏った食事になりそうときはメニュー変更を行っている。						
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具は次亜塩素酸水、ハイターで消毒をしている。食材は職員が買い物に行き、鮮度の良いものを選んでいる。						

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口の中の清潔が保てるように食事の後は口腔ケアを実施している。必要に応じて仕上げ磨きを行い食物残渣がないか確認するようにしている。	/	/	/	利用者一人ひとりの基本情報に、口の中の情報が記載されている。職員が、利用者に「口の中見せてください」というと、快く見せてもらえる関係ができています。毎食後、フロア内の洗面所で利用者自身で口腔ケアを行い、職員は後ろで見守りしている。また、洗面所の後ろの棚には口腔ケア用品を置いているほか、利用者自身が義歯などの管理もしている。さらに、口腔ケア用品を使用しない時には、蚊帳で覆っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に観察している。本人からの訴えがあるときには個人記録(介護ソフト)に入力している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医や歯科衛生士からは指導は受けていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夜間、入れ歯洗浄剤を使用しているので、清潔が保たれている。義歯ブラシも活用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	本人の行きやすいタイミングを見計らって声掛けや誘導を行い、シコップや歯ブラシを準備する。まずはご本人にしてみせ、不十分なところは適宜お手伝いするようにしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	かかりつけの歯科に職員同行で受診している。受診後の注意点も聞きとり、対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	適宜トイレ誘導し、トイレでの排泄が継続出来るよう支援している。トイレ誘導のタイミングについても、排泄時間を記録して活用している。	/	/	/	現在、事業所には紙パンツを使用している利用者が14名いるほか、夜間のみテープ止めのおむつを使用している利用者もいる。事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として、職員が声かけや誘導をしている。夜間のみ、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、自発的にトイレに行くことのできる利用者もいるほか、排泄チェック表を確認しながら、職員が声かけをすることもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食欲減退や精神的な不穏、身体の不調等に繋がってしまうことを理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排便チェック表で排便の量、形状をチェック。排尿も排泄時間をチェックしてパターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	夜間、日中、状態に合わせて、使用するパットの種類を見直している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	朝食時にヨーグルトを提供している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表にてパターンや兆候が分かるので、声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	意思を伝えられない方もおられる為、職員間で話しあい、感じた事気付きをご家族に報告相談し了解が得られたら使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	夜間のみオムツ、夜間のみ大きなパットを使用するなど、昼夜での使い分け、熱発時や体調不良時に変更するなど適時使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	朝、メニューにヨーグルトを多くいれている。水分も食事から摂れる水分以外1?摂取することを目指しているが、薬に頼っているところもある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	時間帯と回数を決めている。シフトを見て、週3回入浴できそうな日を探したり、温度や入浴時間は健康上問題がないかを考慮し希望に沿うように努力している。	◎	/	△	週2回、事業所では利用者に入浴できる機会を設けている。月・火・木・金曜を事業所の入浴日として、午前中2時間と午後の2時間を活用して、利用者の入浴支援をしている。また、職員は入浴順が平等となるように配慮し、湯の温度や浴槽に浸かる時間は、利用者の希望に添うようにしている。現状では対応できていないものの、事業所では、「同姓介助と併せ、利用者が入浴したい時に入浴できること」を目指している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	午前中、午後など時間を変える。声掛け、介助する職員を変えるなどの工夫。散歩をしてから汗をかいたのと自然な流れで入浴できるようにしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で洗える所は自分で洗ってもらっている。浴室内の手すりも多く、入居者一人一人に合わせて、幅を調節できるので、安心して入浴していただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	午前中、午後、など、時間を変える。声掛け、介助する職員を変えるなどの工夫。散歩をしてから汗をかいたのと自然な流れで入浴できるようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴直前にバイタルの測定入浴後は 適宜水分補給と休息がとれようとしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	昨晩が不眠だった場合には早めに休んでもらう等睡眠時間がとれるようにしている。個人記録にも睡眠状態を記入し、睡眠パターンを確認している。				事業所には、入居前から眠剤を使用している利用者のほか、入居後に主治医と相談しながら、薬剤を使用するようになった利用者もいる。夜間に寝付けられない利用者には、お茶を飲んでもらったり、職員と話をしたりしながら、過ごしてもらっている。また、事業所では、日中の活動量を増やすなど、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中に活動をし、昼夜逆転にならないようにしている。しかし、体力面も考慮して、昼寝の時間も少しはとるようにしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中に活動するようにしているが、眠剤に頼っているところもある。日中の活動を増やすため、散歩を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼寝の時間を取るように声掛けを行っている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人から希望があった場合にはご家族と電話で話を出来るように支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	携帯電話を持たれている方がおられるので、かける支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があった場合は快く対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人宛の手紙が来たときはお渡しし、届いたことを送り主にも報告するようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族に電話をかけていただく事に理解、協力をいただいている。敬老会のメッセージの依頼をするなど、送って頂いたり、してくださる。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	お金を本人が使うことの大切さも理解はしているが、紛失のトラブルのリスクを考えて、お預かり金と言う形で家族からお金を預かっている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	本人と一緒に買い物に行き、お預かり金の中から支払い、購入することで、お金を使えるようにしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物先に理解や協力を得る働きかけを行うことはしていないが、トラブルになったことはない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	紛失時のトラブルのリスクを考えて、お預かり金という形で購入希望があるものは購入できるように支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居契約時にお預かり金という形で、使用させていただく事を説明している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お預かり金という形で、受領書の発行、毎月の利用料請求書送付時にレシートのコピーと出納帳を送付し、明確にしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	コロナウイルスの関係で関東や大阪に家族がおられる場合などは手紙を送っていただいたり、テレビ電話をしながら家族との関係が途切れないように支援している。	◎		○	事業所では可能な範囲で、利用者や家族の要望に対応できるよう支援している。現在のコロナ禍において、面会制限が設けられていることをあり、入居して間もない利用者で、県外に住んでいる家族には、利用者の様子を伝える写真を送付している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関横に事務室があり、窓越しに来客者が来られたのがわかるので、声掛けを行っている。	◎	◎	○	市道に面している事業所の玄関は、整理整頓されている。玄関と駐車場の間には、ジュースの自動販売機が設置されており、近隣住民や職員、利用者が利用している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	廊下や台所、トイレなどは電気の色も温かさを感じられる色になっている。見通しよく、食堂、台所、廊下で仕切っている壁やドアがないため、住まいとしての心地や良さがある。	◎	◎	○	事業所は昨年建ったばかりの新築で、建物内も整理整頓され清潔感がある。玄関入り口には、ジャーマンアイリスの大きな写真の額が飾られ、来訪者の目を引きつけてくれる。事業所内の窓を開けると、海の潮の匂いや浜風が心地良さを引き立たせてくれる。また、事業所の2階にはテラスがあり、洗濯干し場を設置しているほか、テラスの塀には飾り窓も設置され、利用者がいすに座った状態で、海の絶景を眺められるよう設計されている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日環境整備を行っている。臭いにも配慮し換気をする、次亜塩素酸水での掃除をしている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	壁面の飾りを季節感に沿ったものに変更している。					
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	フロアにソファを置く。机の配置も工夫し、気の合う同居者同士で思い思いに過ごせるようになっている。居室では独りになれる。廊下が一直線になっており、一歩居室を出ればスタッフコーナーに職員がいるので、人の気配を感じられる。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	扉を必ず閉めることで直接見えないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族の写真や飾り、使い慣れたものを持って来ていただくことで、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	◎			居室には、ベッドやエアコン、タンス、ハンガーラックを設置している。個人の持ち物には、鏡や時計、テレビ、収納家具などが見られた。居室に家族写真を飾っている利用者もいる。また、事業所では利用者と家族と相談し、ナースコールやセンサーマットを個人的に自費購入し、設置している居室もあった。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレにはトイレのマークを掲示、居室は表紙を貼り、わかりやすいように工夫している。				トイレの中には、「トイレは座ってしましよう」という張り紙がされている。歩行器や車いすが通りやすいように動線が確保され、廊下は整理整頓されている。また、食卓台には、職員手づくりの杖入れが設置されているほか、洗面台の下のパイプには発砲スチロールでカバーするなどの配慮がなされている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	食器用洗剤に食器用洗剤としてテプラを貼っている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は1階と2階で順番に回している。読み終えた新聞紙は入居者とゴミ箱を作るのに活用している。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	身体拘束適正化委員会を鍵をかける事の弊害について勉強をした。夜間以外は鍵をかけていない。	◎	◎	○	代表者と職員は、鍵をかけることの弊害などの研修会で学び、理解している。日中には、居室や各ユニットの出入り口、玄関の施錠はしていない。また、各ユニットの入り口の開閉時にはチャイムが鳴るようになっており、職員は利用者等の出入りを確認することができる。さらに、事業所では防犯のため、夜間のみ施錠をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	鍵をかけないことで一人で出て行ってしまわないかと不安がご家族の方もいらっしゃるが、玄関ホールと居住空間の間の扉にはドアが開くと音が鳴る事も説明し安全確保についても説明している。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	生活空間と玄関ホールとの間にセンサーがあり、扉を開けると音が鳴るようになっている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の面談の際に情報収集するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルを毎日測定し、変化を記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	連携看護師の訪問、矢野Drの往診時に気になることがあれば、報告、相談を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけ医に関しては入居時に相談させていただいています。ご希望に応じて希望する医療機関で受診出来るよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時にかかりつけ医の相談をし、納得を得られている本人及び、家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医に相談し、通院の介助を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院にしようとするときには事前に家族に説明し、合意をいただいている。同行の希望があった場合、一緒に行っている。結果についても、電話で報告を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院までの経緯をまとめ、入院先に情報共有している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者と連絡を取り合うようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	何か変わった事があれば、主治医や看護師に報告・相談するようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	往診の前日には入居者の健康状態で気になる所をFAXでDrに送っている。訪問日以外でも、皮膚の異常を発見したときなど、連携看護師に電話、ラインで画像を送るなどをし、アドバイスをいただいている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	連携看護師、Drの携帯電話番号を教えていただいているので、24時間相談できる対応がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタル測定を行っている。状態変化を感じ取れば、かかりつけ医に相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	各個人別にお薬情報を管理し、すぐに確認できるようにしている。副作用等についてはすべて把握できていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	マニュアルを作成し、毎日トリプルチェックを実施している。飲み忘れや誤薬を防げるように取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の内容に変更があった場合には特に気を付けて経過観察している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	排便の間隔、量を個人記録に記録して、かかりつけ医、連携看護師に相談している。				

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態変化の段階ごとに主治医・ご家族・施設等で話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	/	/	/	法人・事業所として、「看取り介護に関する指針」を作成し、入居時に全ての利用者等に看取りや重度化の説明を行うほか、状況に応じて再確認をしている。現在、事業所として、初めての看取り介護を実施している。重度化や終末期などには、利用者や家族、医療関係者、職員等で話し合い、方針を共有できている。また、事業所では看取りの研修を実施している。さらに、管理者とユニットリーダーが事業所の近くに住んでいることもあり、職員が安心して連絡できる体制も確保されている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	入居時に終末期のあり方について意向を確認し、終末期には主治医が説明し家族に再度意向を聞き話し合い方針を共有している。	◎		○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	医療連携機関と協力し、ホームで行える支援内容を明確にする。家族に説明し、同意を得るようにする。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	理解と同意を得て対応するように、話し合いを行う。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族や協力医療機関と連携を図りながら支援していく体制を整えている。今後の変化に備えての準備はかかりつけ医よりアドバイスがある。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会の際や電話等で経過報告をこまめに行っている。ご家族から相談があれば、話をするようにしている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	入社時に研修を行っている。定期的には出来ない。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	コロナの対策のマニュアルをたてている。インフルエンザに対しての出動停止の基準を作成し、周知している。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健センターから最新状況をメールしていただいている。自発的にもインターネットから情報を収集している。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	保健センターから最新状況をメールしていただいている。自発的にもインターネットから情報を収集している。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面台に手洗いやうがいの手順、洗い残しの多い箇所、アルコール消毒の手順を掲示している。食事前にはアルコール消毒を徹底している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	変わったことがあれば、電話で報告している。2ヶ月に1回状況報告の手紙、写真付きの広報紙を発送している。				事業所の開設当初からコロナ禍のため、面会制限を設けていることもあり、事業所での行事に家族の参加を呼びかけることはできていない。事業所で開催した敬老会には、事前に職員が家族に連絡して、利用者宛の手紙を書いてもらい、代読するなどの配慮をし、利用者から喜ばれている。事業所では、「コロナの感染状況が落ち着けば、家族が参加できる行事を実施したい」と考えている。また、家族には、利用者の状況を電話で報告したり、面会時に声かけをしたりしているほか、2か月に1回、「にじいろ便り」に添えて、手紙を送付している。さらに、事業所の運営上の出来事などは、事業所から広報誌や文書で発信しているものの、利用者家族アンケートの結果からは、家族に理解を得られるまでには至っていないことが窺える。今後は、運営上の事柄など、家族にも理解や協力が得られるよう、職員間で検討することを期待したい。さらに、事業所の近隣に住んでいる家族の面会は、現在可能としているものの、県外家族の往來の面会までは可否を決めていないため、今後事業所として協議し、何らかの対応するようにしている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	現在はコロナウイルスの対策の為、行えていないが、面会が出来るようになれば、お茶をお出しし、居室にてゆっくりと私語していただけるよう支援したい。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	広報紙に行事予定を掲載し、案内している。コロナが終息すれば、ご家族にも参加していただきたい。			○		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月に1回の広報の発行、日常の様子をお知らせする手紙を発送している。			○		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	電話や、面会時に、不安なことや知りたいことを聞けば、経過報告をするようにしている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	関係性については概ね理解できている。薬代金と住診代金を毎月持って来ていただき、月に1回は面会していただきやすいようにしており、関係の再構築の支援をしている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	請求書を郵送する際に行事については広報紙で行事の予定を記載、写真での状況報告。運営推進委員会の資料で文章での状況報告を行っている。職員の異動退職については報告できていない。			x		△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	年に1回家族会を開催する予定だが、コロナウイルス対策の為、行っていない。					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に高齢者に起こるリスクについて説明している。電話や面会時に状態報告し、これから起こるリスクについても説明や対策について話し合うようにしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	変化があれば随時連絡を取るようにしている。また、現在面会30分の時間制限をしており、終了時にはこちらから話かけをし、相談しやすい関係性の構築に努めている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には具体的に説明するようにしている。変更等があった場合には同意を得るようにしている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ご本人の経過をふまえてご家族や主治医と相談し納得のいく退去先に移れるよう支援している。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	重要事項説明書に記載してあり契約時に説明を行い同意を得ている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	内覧会にきていただき、ホーム内を見学、パンフレットをお渡しした。地域の奉仕作業にも参加し、理解を図っている	/	◎	/	職員が利用者と一緒散歩をする時に、地域住民に挨拶をしたり、地域の奉仕作業に参加協力をしたりするなど、日常的に地域住民と交流をしている。町内会には法人として加入し、回覧板や区報も回ってくる関係性が築けている。管理者を含め、事業所のある地元に住んでいる職員もいる。現在のコロナ禍において、秋祭りなどの地域行事の開催が自粛されているものの、開催が再開されれば利用者と一緒に参加することを予定している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	奉仕作業への参加や海岸を散歩する時に、釣りをしている方や、散歩されている地域の方に挨拶をしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	フロアーの窓からも散歩されている地域住民の方が見え、手を振っていただくことがある。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	現在はコロナ対策で立ち入り制限をしている。コロナウイルスが終息すれば、気軽に立ち寄りいただけるようにしたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩中に会う時は、あいさつ出来ているが、日常的なおつきあいは出来ていない。コロナウイルスが終息すれば、気軽に立ち寄りいただけるようにしたい。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	公民館に紅白幕や将棋盤などを貸していただいた。コロナウイルスが終息すれば、ボランティアにもきていただきたい。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域資源については、紅葉を見に公園へ出かけたり、行事に使う物品を公民館に貸していただいた。日常的には防波堤の散歩を行っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	公民館に紅白幕や将棋盤などを貸していただいた。消防署員に来ていただき、避難訓練を行い、指導していただいている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルス感染予防のため、会議は中止し、運営状況をまとめた書類を会議メンバーに送付している。	○	/	○	事業所の開設当初からコロナ禍のため、集合形式での運営推進会議は1回も開催できておらず、今までは文書開催のみとなっている。事業所の近隣の参加予定メンバーには、報告などの文書を持参して、職員から意見を聞くことができているが、利用者や家族の意見を聞き出すまでには至っていない。また、行政の実地指導の中で、「運営推進会議には、地元の他のグループホームからの参加もいいのか」とアドバイスを受け、事業所として、市内の他の事業所に会議の参加の呼びかけをしている。今後は文書開催であっても、利用者や家族から意見を聞いたり、家族アンケートを実施して参考にしたりするなど、工夫した会議となるよう職員間で検討することを望みたい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	今回の外部評価の結果を書面にて報告する予定である。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	他事業所からの意見はいただき、結果報告しているが、地域住民、入居者御家族からの意見を聞けていない。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	1か月前には案内を出すなど、通常開催になった時には工夫したい。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議構成員に議事録を送付。玄関にもファイルに綴って設置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念をフローア、玄関に見えやすいように大きく貼っている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	運営推進会議の資料に掲載するようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修案内があった場合には全職員に案内し、適宜声掛けをして研修に参加している。				事業所として、地域密着型サービス協会に加入し、職員に外部研修を周知するほか、認知症実践者研修に順番に参加できるよう支援している。月1回実施しているホーム会議を活用して研修会を開催することもあり、職員のスキルアップに努めている。また、事業所として、急な職員の欠勤にも対応できるような体制づくりをしたり、有給休暇の取得を促進したりするなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実践者研修に順番に行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格取得の奨励している。職場環境の整備などは、職員の負担を軽減するため、ipadを導入している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着協会に参加している。地域密着型サービス連絡会議に参加している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	有給取得や急な欠勤でも対応できるように職員の勤務体制を作っている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	入社時の研修により、虐待や不適切なケアについて理解している。				入社時に、職員は虐待防止などの研修を受けている。虐待防止など、事業所では「対応方法のマニュアル」を作成しているものの、全ての職員までは周知できていない。また、不適切な行為などの発見をした場合の対応方法・手順については、事業所としてマニュアルを作成していない。今後は、全ての職員が不適切な行為を発見した場合に、統一した対応方法や手順に沿って対応できるよう、マニュアルを作成したり、身体拘束適正化委員会などを活用して職員間で話し合ったりするなどの取組みを期待したい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月ホーム会議、ユニット会議を開催し、話し合いの場を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	発見した場合の対応方法や手順については、マニュアルを用意している、入社時の研修でも虐待について行っているが、全ての職員が上手に対応できるとは限らない為、再周知していく事が必要だと思う。			△	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	適宜、話を聞いたり仕事の様子を見るようにしている。が十分ではない。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	入社時の研修と身体拘束適正化委員会と研修を行い、正しく理解できている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ホーム会議時の身体拘束適正化委員会で、ホームの状況と照らし合わせて話し合いを行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居契約時に身体拘束はルール違反との認識をしており、緊急をやむを得ない場合でない場合で、ご家族、本人に同意を得た場合でない限り行わない事を説明している。				

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	一部の職員しか理解できていない状況。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	該当する事例がない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	該当する事例がない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変時や事故発生時のマニュアルがあり職員に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット・事故報告書があり発生時には報告書に記入し再発防止策を立てている。1階、2階回覧し、全職員に周知。ホーム会議で再確認を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	同じ事故が繰り返さないように再発防止策を立て、検討を行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	今年度、事例はないが、苦情があった場合にはスタッフ間で共有し、対応方法について検討する。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	今年度、事例はないが、あった場合には速やかな対応と必要であれば、市町村にも相談・報告を行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情があった場合には速やかに回答と前向きな話し合いを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	ケアプラン更新時に、本人の希望を聞く機会がある。また、日常的にも話していただいている。			○	職員は利用者から、直接意見を聞くようにしている。家族からは、面会時や電話連絡時、手紙の送付などを通して、職員は意見を確認している。また、職員には日々の申し送りやユニット会議の中で意見を聞くようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議の資料にも意見を記入するスペースを作っている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時も苦情相談窓口の案内を行っているが、玄関にも苦情窓口を明確にし掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	会議室に常駐しており、自ら現場に足を運び、職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月のホーム会議後のユニット会に参加し、意見や提案を聞いている。			○	

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	入社時の研修で外部評価について、外部評価の項目の説明を行い、サービス評価の意義や目的を理解している。				今回の調査が、事業所として初めての外部評価である。職員には入社時に、外部評価をテーマに取り上げて研修会を実施している。利用者家族・地域アンケートを実施する際に、事前に事業所では、家族や地域住民に対して外部評価について説明し、協力を呼びかけている。また、運営推進会議などを活用して、外部評価の結果報告する場合には、利用者や家族、地域の参加メンバーに分かりやすく報告できるよう、簡潔にまとめたものを作成して、配布の上で説明を行うなど、工夫して報告できることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	今回の評価を通して、事業所の現状や課題を明らかにし、意識統一や学習をしていく。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	今回の結果を踏まえて、実現可能な目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組んでいく予定。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	今回の評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしていただく予定。	△	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認する。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルがあり、玄関とスタッフコーナーに設置し、いつでも見られるようにしている。				事業所では、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。管理者は、地元の消防団に加入しているほか、事業所の隣家の住民は、市消防団の副団長をされており、協力体制を取りやすい環境にある。火事などの災害発生時には近隣住民に連絡できるよう協力依頼をしているものの、災害時等の地域住民との連携の話し合いや合同訓練の実施にまでは至っていない。また、コロナ禍の収束後には、運営推進会議などを活用して、地域住民を含めた災害について話し合う機会を設けたり、地域の防災訓練に参加して協力体制を呼びかけたりするなどの取組みを期待したい。さらに、事業所として、県の原子力防災訓練にも参加し、実際に松山市まで避難する訓練にも協力している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	8月に日中の火災を想定した避難訓練を行った。10月には原子力災害を想定した県の避難訓練に参加し、松山まで避難した。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は業者へ委託し定期的に点検している。備蓄の食糧についても点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	8月には消防署員に来ていただき、避難訓練を行った。地域住民や他事業所と合同訓練や話し合う機会などは確保できていない。	○	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	◎	県が行った原子力災害の避難訓練に参加し、松山のパートナーハウスかとれあまで避難を行った。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	地域に向けた情報発信として、運営推進会議で運営報告を行っている。その他の取り組みは出ていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	施設見学に来られた際に相談を受ける事はあるが、地域の高齢者や認知症の人の相談支援取り組みまでは出ていない。		×	△	事業所として、地域住民からの相談をまだ受けたことはない。事業所では地域密着型サービス協会に加入しているほか、市内の連絡会議にも参画している。現在のコロナ禍において、事業所から地域へ情報発信などを行っていないものの、管理者等は、「今後、認知症カフェを開催したい」と考えており、地域住民や関係者に呼びかけながら、開催が実現できることを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	事業所を開放、活用し、地域の交流の場、秋祭りの練り宿とし活用する事を前提に設計しており、コロナウイルスが終息すれば、積極的に地域交流していきたい。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	連絡があれば受け入れる予定。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	市内の地域密着型サービス事業者が集まる連絡会議に参加している。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 8 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890400124
事業所名 (ユニット名)	グループホームきららハウスアイリス 2階
記入者(管理者) 氏名	青木 大介
自己評価作成日	令和 3年 6月 29日

<p>【事業所理念】 人としていつも通りをこの場所で</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 (初回調査)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 昨年4月に開設された2階建ての新しい事業所は、利用者や来訪者を気持ち良く出迎えてくれる。事業所から防波堤越しに海の景色が見え、利用者や職員、来訪者の癒しとなっている。事業所近くの防波堤沿いが利用者の散歩コースで、地域住民と一緒に話しながら歩くなど、ふれあいの場としても活用されている。また、事業所には管理者を含め、地元に住んでいる職員もおり、地域の奉仕作業や災害時にも協力し合える関係性ができている。さらに、管理者と職員は丸となって、理念にもある「利用者がついものとおりの、この場所で生活できるよう」支援している事業所である。</p>
------------------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時に面談を行い、本人、家族からの基本情報や趣味、これまでの暮らしを聞き意向の把握に努めている。ケアプラン更新時にも、本人、家族の意向を確認している。	○	/	○	入居前に、計画作成者とユニットリーダーが自宅や施設などに出向いて利用者や家族等と面談し、希望や意向を聞いている。また、散歩時に、「コーヒーが毎日飲みたい」と話される利用者もおり、日々の支援の中でも職員は確認をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	まず、本人に理由を聞く。それでもわからない時は表情や行動から読み取ることとしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人より訴えがあった時には、家族に電話で本人の思いについて話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人記録(介護ソフト)に発言された内容などを記入し、業務日誌のラベルにチェックを入れ、業務日誌に表示されるようにして共有化している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ユニット会での話し合いで個別に本人の生活について話し合いを行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時に事前面談を行い、家族、本人から今までの暮らし方について聞き取り、生活歴についてもシートに記入している。	/	/	○	入居前に、計画作成者とユニットリーダーが自宅や施設などに出向いて、これまでの暮らし方や現状などを把握し、アセスメントシートなどに記録している。また、以前の施設や在宅担当の介護支援専門員からも情報を聞き、アセスメント表を提供してもらったこともあり、職員は分からないところの確認をしている。現在のコロナ禍において、ご家族に対しては必要時に電話にて確認したり、プランの意向確認の際などに聞き取りしている。事業所では面会制限を設けているため、知人や友人などから聞き取りをするまでには至っていない。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	個人記録に本人の心身の状態を記録している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	睡眠不足、便秘、脱水など、体調面を排泄表や水分のチェック表で確認したり、介護ソフトでの個人記録入力で申し送りの欄にチェックを入れ、表示されるようにし、共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の言動は、個人記録に残している。時間帯や頻度を観察して、要員は何かの把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	個人記録に記録し、朝、夕の申し送りにて把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の情報をもとに、本人が何を求めているか検討している。家族の支援が必要な場合は電話にて連絡をしている。	/	/	○	利用者や家族、関係者から聞き取りした情報を基にして、出勤している職員でカンファレンスを行い、利用者本人の視点でのサービス提供を検討している。また、検討した内容は、利用者や家族に確認をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人の有する能力に応じて、調理手伝い、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、を行えるように、準備、見守りの支援をしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人の気持ち、意向を聞きながら、支援を行っている。家族の支援が必要な場合は電話にて連絡をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向に沿ってプランを作成している。				事前に、事業所では利用者や家族から「ケアのあり方」について確認し、各ユニットの職員で話し合いをしている。家族からは、「認知機能の低下を防いで欲しい」「自宅で野菜を作っていたので、野菜を作らせてほしい」などの意見や要望が出され、意見を反映した介護計画を作成している。また、作成した介護計画は、家族に説明のうえ配付している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人やご家族から聞いた事をもとに、それぞれの意見を反映し、特記事項やカンファレンスの記録を参考にして作成するようにしている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活歴を参考にしたりご家族から情報を聞き慣れ親しんだ暮らし方が出来るよう支援している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の支援が必要な時は、協力していただけるように計画をしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画をファイルにまとめたものと、一覧表にしたものをスタッフコーナーに置いている。それを確認しながら、日々のケアを行っている。				介護計画は、いつでも職員が確認できるように、一覧表を作成して各ユニットなどに置いている。事業所では、介護ソフトを導入しており、ケア実施後にはノートパソコンを活用して、職員は入力している。業務日誌には、共有部分で気をつけることを記録している。また、支援内容にはサービスを実施した記録の記載はできているものの、具体的なサービス内容や職員の気づきまでの記録には、職員により個人差が見られる。パソコン入力作業が苦手の職員もいるため、今後は事業所内で研修会を開催したり、職員間で話し合ったりするなど、利用者一人ひとりの具体的な記録が残せることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護計画をファイルにまとめたものと、一覧表にしたものをスタッフコーナーに置いている。それを確認しながら、日々のケアを行っている。個人記録に記録し、ケアプランのラベルを付けている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人記録に具体的に言葉、しぐさ、行動などを記入している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個人記録に入居者の生活の様子、身体の状態を記入している。気づきや工夫等の共有は個人記録に入力しているが、量としては少ない。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画書は期間に応じて見直しをし、入院等で状況が変わった時にはその都度見直しを行う予定。				状態の安定している利用者の介護計画は、6か月に1回を基本として見直しをしている。事業所では、利用者本人の状態に合わせて見直しができおり、入居後には1か月から3か月で計画の見直しをしている。また、計画の見直し時には、利用者や家族にも相談している。さらに、各ユニットで職員が月1回モニタリングを実施し、記録に残している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	状況に変化がみられない場合には現状のプラン内容で継続している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入居者さんの状態に変化が生じた場合には介護計画書の見直しをする。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的にはホーム会議、ユニット会議を行っている。緊急案件がある場合はその都度会議を開催している。				事業所では、運営に係ることや個別利用者の留意事項、家族からの情報を共有するため、月1回ホーム会議やユニット会議を実施し、職員間で話し合いをしている。緊急の案件がある場合には、その都度管理者や計画作成者、ユニットリーダーが話し合いの場を設け、1日2回の申し送り時に職員間で情報共有をしている。また、参加できなかった職員には、議事録を閲覧してもらい、確認後には押印をしている。さらに、1週間後には議事録をリーダーが確認し、押印していない職員には口頭で伝えるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	事前に次第を用意して、活発な意見交換ができるように意見を前向きにとらえる工夫をしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	ホーム会議を第4週の水曜日に固定し、職員が参加しやすいように工夫している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	スタッフ会開催後は議事録を配布し、不明な点については直接説明するようにしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	介護ソフトから抽出される業務日誌でその日の情報伝達は行えるようにしている。確認した職員は押印するしくみをつくっている。				日々の申し送りやユニット会議などを活用して、情報共有をしている。また、介護ソフトには情報を職員が記載するほか、閲覧した職員の氏名が表示される仕組みとなっており、情報共有しやすくなっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	入居者の情報は個人記録と業務日誌に記録している。さらに、口頭で伝える。何日も続くような業務連絡は介護ソフトのスタッフ連絡記録している。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の意向や、その日の様子を見て把握の努力をし、職員の勤務や状況を考えてそれを叶える努力をしている	/	/	/	水分補給の飲み物やお弁当を注文時、移動スーパー来訪時など、事業所では、様々な場面で利用者が自己決定できる機会を設けている。男性利用者が、「ゴミが重いやろ」と職員に声をかけながらゴミ出しを手伝ったり、率先して味噌汁づくりや米とぎなどをしたりすることもあり、その都度職員から「ありがとう」「助かります」などの感謝の意を伝えると、利用者の笑顔になる場面が見られる。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴後の服などを選んでいただくなど、自己決定する機会や場面を作っている。	/	/	/		◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	入居者が思いや希望を表せるように、ゆっくりとかかわりを持てるように意識している。上着などはハンガーにかけており、着る服を自己決定できるようにしている。	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	就寝は本人のタイミングで行っていただいている。入浴も長くつかりたい方に対しては健康状態を考慮して、ぬるめのお湯で10分かかるなど支援をしている。	/	/	/		/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	洗濯物たためや、日々の食事作り、食器洗い、等を手伝っていただき、うるおい等を引き出す雰囲気づくりをしている。	/	/	/		/	○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	主訴から少しずれた訴えに対してうまく対応できないことがあったが、訴えられた言葉から一つ一つ丁寧に考え、本人の意向に沿うようにしている。	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	入社時の研修や身体拘束適正化委員会で虐待や身体拘束は人権侵害であることを意識するようにしている。	/	/	/	◎ ◎ ○		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	職員が焦ってしまったり、危険なことがあった時には声が大きくなってしまいう事もある。	/	/	/	△		
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時や入浴時にはプライバシーに配慮して扉を開めるなど注意出来ている。	/	/	/	/		
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室するときは、声掛けをしてからにしている。見守りが必要な時など以外は不必要に居室の扉を開けっぱなしにしないように配慮している。	/	/	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	就業規則内の服務規律にも記載されており、日々の業務内でも個人情報の取り扱いには注意している。	/	/	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	洗濯物たため、食事作り、食器洗いなどしていただき、助けていただいている。終了後は感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	/		
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	寂しさや不安を感じられている入居者がおられると、入居者同士が優しい声掛けをしているのが良く見られる。	/	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	会話に整合性がとれなくなり、トラブルになりそうときは職員が間に入り、気持ちよく会話ができるようにしている。寂しさを感じておられる入居者に対しても、世話役の入居者が手を握って声掛けされている場面もみられる。	/	/	/	/		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	場所の移動や仲介をしている。また、話題を変える、作業提供をするなど別のところに気がそれるようトラブルになる前に一時的に距離を置くなどしている。	/	/	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入居前には事前面談を行っています。又、日々の会話で話題にしたり面会の際にご家族様からお聞きする事もある。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居時の面談で聞き取りをおこなっているが、地元が近い入居者でない入居者のなじみの場所の把握は出来ていない。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族の協力があり、自宅へ一時帰宅や外泊はある。職員の介助でもコロナウイルス対策をしながら、これまで大切にしてきた場所へ行く支援を行った。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	現在、コロナ対策のため、面会していただけるかたはご家族に限られているが、面会制限が解除されたときには、気軽に立ち寄れる場所にしていきたい。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	海岸沿いの散歩を行っている。入居者が固定されてしまわないように声掛けを行っているが、あまり外に出れていない入居者もおられる。	△	○	○	日中は、全て利用者がホールに出て過ごし、多くの利用者は事業所近くの防波堤沿いの散歩を日課としている。移動スーパーの来訪があった場合には、利用者も一緒に駐車場等に出て、買い物を楽しんでいる。また、プランターを活用して野菜の栽培をしている利用者もいる。さらに、外出時のみ車いすを使用している利用者があるほか、外に出ることが少ない利用者にも、天気の良い日は外に出て、外気浴をしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナウイルスの影響もあり、ボランティアの協力での外出支援は出来ていない。コロナウイルス対策をしながらレクでの外出を行っている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子での散歩を行っている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	現在、2名 コロナウイルス対策をしながら、本人の希望に沿って外出支援した。これからも続けていく。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の理解を深めるようにホーム会議で少しずつ話をしたりしているが、理解度は経験年数などによってまちまちで十分とは言えない状態。				外出時に、玄関にある靴箱から自分の靴を取ってもらうなど、職員は利用者自身ができることやできそうなことの見守りをしている。訪問調査日の昼食後には、自分の席で足挙げ体操や指折り体操を、自発的に取り組んでいる利用者の様子を見ることができた。また、事業所では、毎日の散歩やラジオ体操を取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日のラジオ体操、排泄は出来る限りトイレで行う。廊下の歩行訓練、屋外の散歩・家事手伝いなど生活の流れの中で維持向上できるように努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	台所に入っただき、野菜を切ったり、座位でも、自席で玉ねぎの皮をむいていただくように場面づくりをしている。 食器洗いもしていただいている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	息子様や娘様にご飯をつくっていたという生活歴があり、今でも、ご飯を作るのが自分の役割だと思われている方がおり、調理の手伝いをさせていただいている。				日常的に、ゴミ出しやモップかけ、草引き、新聞取り、調理の下ごしらえなどの家事作業を、利用者一人ひとりができることをしている。また、利用者に楽しみのある生活が送れるよう、コロナ禍の収束後には、事業所として、夏祭りなどの地域行事に利用者と一緒に参加して行くことを考えている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	座位でたまねぎの皮をむいていただく、ラジオ体操時に体は動かしにくくても号令をかけていただくなど役割、出番をつくっている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナウイルスの影響で様々な行事が自粛となっているが、夏祭り、秋祭りなど、参加していきたい。				

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	化粧水を使用されている方もおられる。思い入れのある時計や、アクセサリをされている。				夜間はパジャマで過ごし、日中には利用者が普段着に着替えられるよう、職員は見守りや支援をしている。男性利用者は、自ら電動髭剃を使用できている。パーマをかけたい利用者は、移動美容室の利用することもある。また、散髪は、美容師資格を持っている職員が行い、整容を整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	入居時に使われていたものを持ち込み頂けるように声掛けしている。居室にもハンガーをかけ、上着などの自己決定が出来るようになっている。腕時計を入居者と一緒に購入したこともある。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	温度調節できるように、季節に合った服装をアドバイスしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時には気候に合わせたり、夏場でも冷房が効いていそうな場所に出かけるときは、上着を用意するなど、支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れている時には適宜更衣するようにしている。髭についても自分で剃れる方は剃っていただくように声掛けを行っている。		◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	美容師の資格を持つ、職員が髪を切っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	現在、重度な方はおられないが、本人らしい髪形や服装をしていただきたいと思う。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は楽しみの一つとしてまた、栄養補給のため口から食べる事の大切さを考えながら食事形態等に配慮している。				他の事業所やインターネットなどを参考にして、職員が1年分の献立を作成している。食材は、職員がスーパーに買い物に出かけ、職員が利用者調理の下ごしらえを手伝ってもらいながら、調理をしている。朝食後のみ、洗い物も利用者によって手伝わっている。事業所には、現在アレルギーのある利用者が1名いるため、食べれない食材のある場合には代替の食材を用意している。また、季節に応じた行事食も職員が調理したり、年末の大掃除などにはお弁当を注文して利用者と一緒に食べたり、土用の丑の日にはウナギを提供できるよう工夫するなど、利用者に喜ばれている。茶碗や湯呑みは、自宅から持参して使用している職員もいるほか、事業所で利用者に合わせて物を準備する場合もある。職員も同じフロアで見守りをしながら、調理した物を利用者と一緒に食べることができている。現在、食事介助を必要としている利用者は1名のみで、全ての利用者が普通食を食べている。献立の栄養バランスなどについて、定期的な話し合いはしていないものの、随時、必要時には話し合いをしている。今後は、定期的に栄養バランスや調理方法などを職員間で話し合ったり、行政等の栄養士に献立を確認してもらうなどの取組みを検討することを望みたい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	△	もやしの根切り、玉ねぎの皮むき、材料を切る、お膳拭き、テーブル拭き、食器洗いなどしていただいている。買い物や献立は入居者ともに行っていない。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	もやしの根切り、玉ねぎの皮むき、材料を切る、お膳拭き、テーブル拭き、食器洗いなどしていただいている。お手伝いをさせていただいた後には必ず、感謝の言葉を伝えるようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーは入居前に確認している。好き嫌いについては、情報収集しているものもあれば、提供して分かってくるものもある。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	献立は季節感ができるように、土用の丑の日には鰻を提供したり工夫している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々に合わせた食事形態で対応している。盛り付け方法も料理に合った、食器の選定など工夫はしている。				
		g	茶碗や湯呑み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	茶碗や湯呑み、箸は使い慣れたものを入居時に持ってきていただいている。が入居者全員は出来ていない。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食は職員も一緒に食べている。現在はコロナウイルス感染予防の為、同じテーブルでは食事をしていない。誤嚥や食事の様子などに注意食べこぼした場合はサポートは行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	フロアからは音や匂いはもちろんのこと、作っている様子も見えるので、雰囲気作りは出来ている。		○	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	入居者の体重の増減に合わせて、食事量の調節をしている。水分摂取量は、3食の他に、9時、15時やその間の時間にも細かく摂取していただき、チェック表を用いて、一日トータル1?摂取出来るようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ご本人が好む飲み物を探している。スポーツドリンクが良いという方もおられる、水が良いという方もおられる。回数も3食の他に、水分補給するタイミングを増やしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは受けていない。偏った食事になりそうときはメニュー変更を行っている。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具は次亜塩素酸水、ハイターで消毒をしている。食材は職員が買い物に行き、鮮度の良いものを選んでいる。				

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口の中の清潔が保てるように食事の後は口腔ケアを実施している。必要に応じて仕上げ磨きを行い食物残渣がないか確認するようにしている。	/	/	/	利用者一人ひとりの基本情報に、口の中の情報が記載されている。職員が、利用者に「口の中見せてください」というと、快く見せてもらえる関係ができています。毎食後、フロア内の洗面所で利用者自身で口腔ケアを行い、職員は後ろで見守りしている。また、洗面所の後ろの棚には口腔ケア用品を置いているほか、利用者自身が義歯などの管理もしている。さらに、口腔ケア用品を使用しない時には、蚊帳で覆っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に観察している。本人からの訴えがあるときには個人記録(介護ソフト)に入力している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医や歯科衛生士からは指導は受けていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夜間、入れ歯洗浄剤を使用しているので、清潔が保たれている。義歯ブラシも活用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	本人の行きやすいタイミングを見計らって声掛けや誘導を行い、シコップや歯ブラシを準備する。まずはご本人にしてみせ、不十分なところは適宜お手伝いするようにしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	かかりつけの歯科に職員同行で受診している。受診後の注意点も聞きとり、対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	適宜トイレ誘導し、トイレでの排泄が継続出来るよう支援している。トイレ誘導のタイミングについても、排泄時間を記録して活用している。	/	/	/	現在、事業所には紙パンツを使用している利用者が14名いるほか、夜間のみテープ止めのおむつ使用している利用者もいる。事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として、職員が声かけや誘導をしている。夜間のみ、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、自発的にトイレに行くことのできる利用者もいるほか、排泄チェック表を確認しながら、職員が声かけをすることもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食欲減退や精神的な不調、身体の不調等に繋がってしまうことを理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排便チェック表で排便の量、形状をチェック。排尿も排泄時間をチェックしてパターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	夜間、日中、状態に合わせて、使用するパットの種類を見直している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	朝食時にヨーグルトを提供している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表にてパターンや兆候が分かるので、声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	意思を伝えられない方もおられる為、職員間で話しあい、感じた事気付きをご家族に報告相談し了解が得られたら使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	夜間のみオムツ、夜間のみ大きなパットを使用するなど、昼夜での使い分け、熱発時や体調不良時に変更するなど適時使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	朝、メニューにヨーグルトを多くいれている。水分も食事から摂れる水分以外1?摂取することを目指しているが、薬に頼っているところもある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	時間帯と回数を決めている。シフトを見て、週3回入浴できそうな日を探したり、温度や入浴時間は健康上問題がないかを考慮し希望に沿うように努力している。	◎	/	△	週2回、事業所では利用者に入浴できる機会を設けている。月・火・木・金曜を事業所の入浴日として、午前中2時間と午後の2時間を活用して、利用者の入浴支援をしている。また、職員は入浴順が平等となるように配慮し、湯の温度や浴槽に浸かる時間は、利用者の希望に添うようにしている。現状では対応できていないものの、事業所では、「同姓介助と併せ、利用者が入浴したい時に入浴できること」を目指している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	午前中、午後など時間を変える。声掛け、介助する職員を変えるなどの工夫。散歩してから汗をかいたのと自然な流れで入浴できるようにしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で洗える所は自分で洗ってもらっている。浴室内の手すりも多く、入居者一人一人に合わせて、幅を調節できるので、安心して入浴していただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	午前中、午後、など、時間を変える。声掛け、介助する職員を変えるなどの工夫。散歩してから汗をかいたのと自然な流れで入浴できるようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴直前にバイタルの測定入浴後は 適宜水分補給と休息がとれようとしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	昨晩が不眠だった場合には早めに休んでもらう等睡眠時間がとれるようにしている。個人記録にも睡眠状態を記入し、睡眠パターンを確認している。	/	/	/	事業所には、入居前から眠剤を使用している利用者のほか、入居後に主治医と相談しながら、薬剤を使用するようになった利用者もいる。夜間に寝付けない利用者には、お茶を飲んでもらったり、職員と話をしたりしながら、過ごしてもらっている。また、事業所では、日中の活動量を増やすなど、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中に活動をし、昼夜逆転にならないようにしている。しかし、体力面も考慮して、昼寝の時間も少しはとるようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中に活動するようにしているが、眠剤に頼っているところもある。日中の活動を増やすため、散歩を行っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼寝の時間を取るように声掛けを行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人から希望があった場合にはご家族と電話で話を出来るように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	携帯電話を持たれている方がおられるので、かける支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があった場合は快く対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人宛の手紙が来たときはお渡しし、届いたことを送り主にも報告するようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族に電話をかけていただく事に理解、協力をいただいている。敬老会のメッセージの依頼をするなど、送って頂いたり、してくださる。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を本人が使うことの大切さも理解はしているが、紛失のトラブルのリスクを考えて、お預かり金と言う形で家族からお金を預かっている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	本人と一緒に買い物に行き、お預かり金の中から支払い、購入することで、お金を使えるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物先に理解や協力を得る働きかけを行うことはしていないが、トラブルになったことはない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	紛失時のトラブルのリスクを考えて、お預かり金という形で購入希望があるものは購入できるように支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居契約時にお預かり金という形で、使用させていただく事を説明している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お預かり金という形で、受領書の発行、毎月の利用料請求書送付時にレシートのコピーと出納帳を送付し、明確にしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	コロナウイルスの関係で関東や大阪に家族がおられる場合などは手紙を送っていただいたり、テレビ電話をしながら家族との関係が途切れないように支援している。	◎	/	○	事業所では可能な範囲で、利用者や家族の要望に対応できるよう支援している。現在のコロナ禍において、面会制限が設けられていることをあり、入居して間もない利用者で、県外に住んでいる家族には、利用者の様子を伝える写真を送付している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関横に事務室があり、窓越しに来客者が来られたのがわかるので、声掛けを行っている。	◎	◎	○	市道に面している事業所の玄関は、整理整頓されている。玄関と駐車場の間には、ジュースの自動販売機が設置されており、近隣住民や職員、利用者が利用している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	廊下や台所、トイレなどは電気の色も温かさを感じられる色になっている。見通しよく、食堂、台所、廊下で仕切っている壁やドアがないため、住まいとしての心地や良さがある。	◎	◎	○	事業所は昨年建ったばかりの新築で、建物内も整理整頓され清潔感がある。玄関入り口には、ジャーマンアイリスの大きな写真の額が飾られ、来訪者の目を引きつけてくれる。事業所内の窓を開けると、海の潮の匂いや浜風が心地良さを引き立たせてくれる。また、事業所の2階にはテラスがあり、洗濯干し場を設置しているほか、テラスの塀には飾り窓も設置され、利用者がいすに座った状態で、海の絶景を眺められるよう設計されている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日環境整備を行っている。臭いにも配慮し換気をする、次亜塩素酸水での掃除をしている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	壁面の飾りを季節感に沿ったものに変更している。					
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	フロアにソファを置く。机の配置も工夫し、気の合う同居者同士で思い思いに過ごせるようになっている。居室では独りになれる。廊下が一直線になっており、一歩居室を出ればスタッフコーナーに職員がいるので、人の気配を感じられる。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	扉を必ず閉めることで直接見えないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族の写真や飾り、使い慣れたものを持って来ていただくことで、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	◎			居室には、ベッドやエアコン、タンス、ハンガーラックを設置している。個人の持ち物には、鏡や時計、テレビ、収納家具などが見られた。居室に家族写真を飾っている利用者もいる。また、事業所では利用者と家族と相談し、ナースコールやセンサーマットを個人的に自費購入し、設置している居室もあった。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレにはトイレのマークを掲示、居室は表紙を貼り、わかりやすいように工夫している。				トイレの中には、「トイレは座ってしましよう」という張り紙がされている。歩行器や車いすが通りやすいように動線が確保され、廊下は整理整頓されている。また、食卓台には、職員手づくりの杖入れが設置されているほか、洗面台の下のパイプには発砲スチロールでカバーするなどの配慮がなされている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	食器用洗剤に食器用洗剤としてテプラを貼っている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は1階と2階で順番に回している。読み終えた新聞紙は入居者とゴミ箱を作るのに活用している。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	身体拘束適正化委員会を鍵をかける事の弊害について勉強をした。夜間以外は鍵をかけていない。	◎	◎	○	代表者と職員は、鍵をかけることの弊害などの研修会で学び、理解している。日中には、居室や各ユニットの出入り口、玄関の施錠はしていない。また、各ユニットの入り口の開閉時にはチャイムが鳴るようになっており、職員は利用者等の出入りを確認することができる。さらに、事業所では防犯のため、夜間のみ施錠をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	鍵をかけないことで一人で出て行ってしまわないかと不安がご家族の方もいらっしゃるが、玄関ホールと居住空間の間の扉にはドアが開くと音が鳴る事も説明し安全確保についても説明している。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	生活空間と玄関ホールとの間にセンサーがあり、扉を開けると音が鳴るようになっている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の面談の際に情報収集するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルを毎日測定し、変化を記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	連携看護師の訪問、矢野Drの往診時に気になることがあれば、報告、相談を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけ医に関しては入居時に相談させていただいています。ご希望に応じて希望する医療機関で受診出来るよう支援しています。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時にかかりつけ医の相談をし、納得を得られている。本人及び、家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医に相談し、通院の介助を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院にしようとするときには事前に家族に説明し、合意をいただいている。同行の希望があった場合、一緒に行っている。結果についても、電話で報告を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院までの経緯をまとめ、入院先に情報共有している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者と連絡を取り合うようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	何か変わった事があれば、主治医や看護師に報告・相談するようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	往診の前日には入居者の健康状態で気になる所をFAXでDrに送っている。訪問日以外でも、皮膚の異常を発見したときなど、連携看護師に電話、ラインで画像を送るなどをして、アドバイスをいただいている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	連携看護師、Drの携帯電話番号を教えていただいているので、24時間相談できる対応がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタル測定を行っている。状態変化を感じ取れば、かかりつけ医に相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	各個人別にお薬情報を管理し、すぐに確認できるようにしている。副作用等についてはすべて把握できていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	マニュアルを作成し、毎日トリプルチェックを実施している。飲み忘れや誤薬を防げるように取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の内容に変更があった場合には特に気を付けて経過観察している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	排便の間隔、量を個人記録に記録して、かかりつけ医、連携看護師に相談している。				

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態変化の段階ごとに主治医・ご家族・施設等で話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	/	/	/	法人・事業所として、「看取り介護に関する指針」を作成し、入居時に全ての利用者等に看取りや重度化の説明を行うほか、状況に応じて再確認をしている。現在、事業所として、初めての看取り介護を実施している。重度化や終末期などには、利用者や家族、医療関係者、職員等で話し合い、方針を共有できている。また、事業所では看取りの研修を実施している。さらに、管理者とユニットリーダーが事業所の近くに住んでいることもあり、職員が安心して連絡できる体制も確保されている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	入居時に終末期のあり方について意向を確認し、終末期には主治医が説明し家族に再度意向を聞き話し合い方針を共有している。	◎		○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	医療連携機関と協力し、ホームで行える支援内容を明確にする。家族に説明し、同意を得るようにする。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	理解と同意を得て対応するように、話し合いを行う。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族や協力医療機関と連携を図りながら支援していく体制を整えている。今後の変化に備えての準備はかかりつけ医よりアドバイスがある。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会の際や電話等で経過報告をこまめに行っている。ご家族から相談ごとがあれば、話をするようにしている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	入社時に研修を行っている。定期的には出来ていない。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	コロナの対策のマニュアルをたてている。インフルエンザに対しての出動停止の基準を作成し、周知している。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健センターから最新状況をメールしていただいている。自発的にもインターネットから情報を収集している。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	保健センターから最新状況をメールしていただいている。自発的にもインターネットから情報を収集している。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面台に手洗いやうがいの手順、洗い残しの多い箇所、アルコール消毒の手順を掲示している。食事前にはアルコール消毒を徹底している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	変わったことがあれば、電話で報告している。2ヶ月に1回状況報告の手紙、写真付きの広報紙を発送している。				事業所の開設当初からコロナ禍のため、面会制限を設けていることもあり、事業所での行事に家族の参加を呼びかけることはできていない。事業所で開催した敬老会には、事前に職員が家族に連絡して、利用者宛の手紙を書いてもらい、代読するなどの配慮をし、利用者から喜ばれている。事業所では、「コロナの感染状況が落ち着けば、家族が参加できる行事を実施したい」と考えている。また、家族には、利用者の状況を電話で報告したり、面会時に声かけをしたりしているほか、2か月に1回、「にじいろ便り」に添えて、手紙を送付している。さらに、事業所の運営上の出来事などは、事業所から広報誌や文書で発信しているものの、利用者家族アンケートの結果からは、家族に理解を得られるまでには至っていないことが窺える。今後は、運営上の事柄など、家族にも理解や協力が得られるよう、職員間で検討することを期待したい。さらに、事業所の近隣に住んでいる家族の面会は、現在可能としているものの、県外家族の往來の面会までは可否を決めていないため、今後事業所として協議し、何らかの対応するようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	現在はコロナウイルスの対策の為、行えていないが、面会が出来るようになれば、お茶をお出しし、居室にてゆっくりと私語していただけるよう支援したい。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	広報紙に行事予定を掲載し、案内している。コロナが終息すれば、ご家族にも参加していただきたい。			○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月に1回の広報の発行、日常の様子をお知らせする手紙を発送している。			○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	電話や、面会時に、不安なことや知りたいことを聞けば、経過報告をするようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	関係性については概ね理解できている。薬代金と住診代金を毎月持って来ていただき、月に1回は面会していただきやすいようにしており、関係の再構築の支援をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	請求書を郵送する際に行事については広報紙で行事の予定を記載、写真での状況報告。運営推進委員会の資料で文章での状況報告を行っている。職員の異動退職については報告できていない。		x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	年に1回家族会を開催する予定だが、コロナウイルス対策の為、行っていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入居時に高齢者に起こるリスクについて説明している。電話や面会時に状態報告し、これから起こるリスクについても説明や対策について話し合うようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	変化があれば随時連絡を取るようにしている。また、現在面会30分の時間制限をしており、終了時にはこちらから話かけをし、相談しやすい関係性の構築に努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には具体的に説明するようにしている。変更等があった場合には同意を得るようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ご本人の経過をふまえてご家族や主治医と相談し納得のいく退去先に移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	重要事項説明書に記載してあり契約時に説明を行い同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	内覧会にきていただき、ホーム内を見学、パンフレットをお渡しした。地域の奉仕作業にも参加し、理解を図っている	/	◎	/	職員が利用者と一緒散歩をする時に、地域住民に挨拶をしたり、地域の奉仕作業に参加協力をしたりするなど、日常的に地域住民と交流をしている。町内会には法人として加入し、回覧板や区報も回ってくる関係性が築けている。管理者を含め、事業所のある地元に住んでいる職員もいる。現在のコロナ禍において、秋祭りなどの地域行事の開催が自粛されているものの、開催が再開されれば利用者と一緒に参加することを予定している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	奉仕作業への参加や海岸を散歩する時に、釣りをしている方や、散歩されている地域の方に挨拶をしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	フロアーの窓からも散歩されている地域住民の方が見え、手を振っていただくことがある。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	現在はコロナ対策で立ち入り制限をしている。コロナウイルスが終息すれば、気軽に立ち寄っていただけるようにしたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩中に会う時は、あいさつ出来ているが、日常的なおつきあいは出来ていない。コロナウイルスが終息すれば、気軽に立ち寄っていただけるようにしたい。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	公民館に紅白幕や将棋盤などを貸していただいた。コロナウイルスが終息すれば、ボランティアにもきていただきたい。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域資源については、紅葉を見に公園へ出かけたり、行事に使う物品を公民館に貸していただいた。日常的には防波堤の散歩を行っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	公民館に紅白幕や将棋盤などを貸していただいた。消防署員に来ていただき、避難訓練を行い、指導していただいている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルス感染予防のため、会議は中止し、運営状況をまとめた書類を会議メンバーに送付している。	○	/	○	事業所の開設当初からコロナ禍のため、集合形式での運営推進会議は1回も開催できておらず、今までは文書開催のみとなっている。事業所の近隣の参加予定メンバーには、報告などの文書を持参して、職員から意見を聞くことができているが、利用者や家族の意見を聞き出すまでには至っていない。また、行政の実地指導の中で、「運営推進会議には、地元の他のグループホームからの参加もいいのか」とアドバイスを受け、事業所として、市内の他の事業所に会議の参加の呼びかけをしている。今後は文書開催であっても、利用者や家族から意見を聞いたり、家族アンケートを実施して参考にしたりするなど、工夫した会議となるよう職員間で検討することを望みたい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	今回の外部評価の結果を書面にて報告する予定である。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	他事業所からの意見はいただき、結果報告しているが、地域住民、入居者御家族からの意見を聞けていない。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	1か月前には案内を出すなど、通常開催になった時には工夫したい。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議構成員に議事録を送付。玄関にもファイルに綴って設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念をフローア、玄関に見えやすいように大きく貼っている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	運営推進会議の資料に掲載するようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修案内があった場合には全職員に案内し、適宜声掛けをして研修に参加している。				事業所として、地域密着型サービス協会に加入し、職員に外部研修を周知するほか、認知症実践者研修に順番に参加できるよう支援している。月1回実施しているホーム会議を活用して研修会を開催することもあり、職員のスキルアップに努めている。また、事業所として、急な職員の欠勤にも対応できるような体制づくりをしたり、有給休暇の取得を促進したりするなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実践者研修に順番に行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格取得の奨励している。職場環境の整備などは、職員の負担を軽減するため、iPadを導入している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着協会に参加している。地域密着型サービス連絡会議に参加している				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	有給取得や急な欠勤でも対応できるように職員の勤務体制を作っている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	入社時の研修により、虐待や不適切なケアについて理解している。				入社時に、職員は虐待防止などの研修を受けている。虐待防止など、事業所では「対応方法のマニュアル」を作成しているものの、全ての職員までは周知できていない。また、不適切な行為などの発見をした場合の対応方法・手順については、事業所としてマニュアルを作成していない。今後は、全ての職員が不適切な行為を発見した場合に、統一した対応方法や手順に沿って対応できるよう、マニュアルを作成したり、身体拘束適正化委員会などを活用して職員間で話し合ったりするなどの取組みを期待したい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月ホーム会議、ユニット会議を開催し、話し合いの場を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	発見した場合の対応方法や手順については、マニュアルを用意している、入社時の研修でも虐待について行っているが、全ての職員が上手に対応できるとは限らない為、再周知していく必要があると思う。			△	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	適宜、話を聞いたり仕事の様子を見るようにしている。が十分ではない。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	入社時の研修と身体拘束適正化委員会と研修を行い、正しく理解できている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ホーム会議時の身体拘束適正化委員会で、ホームの状況と照らし合わせて話し合いを行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居契約時に身体拘束はルール違反との認識をしており、緊急やむを得ない場合でない場合で、ご家族、本人に同意を得た場合でない限り行わない事を説明している。				

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	一部の職員しか理解できていない状況。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	該当する事例がない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	該当する事例がない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変時や事故発生時のマニュアルがあり職員に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット・事故報告書があり発生時には報告書に記入し再発防止策を立てている。1階、2階回覧し、全職員に周知。ホーム会議で再確認を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	同じ事故が繰り返さないように再発防止策を立て、検討を行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	今年度、事例はないが、苦情があった場合にはスタッフ間で共有し、対応方法について検討する。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	今年度、事例はないが、あった場合には速やかな対応と必要であれば、市町村にも相談・報告を行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情があった場合には速やかに回答と前向きな話し合いを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	ケアプラン更新時に、本人の希望を聞く機会がある。また、日常的にも話していただいている。			○	職員は利用者から、直接意見を聞くようにしている。家族からは、面会時や電話連絡時、手紙の送付などを通して、職員は意見を確認している。また、職員には日々の申し送りやユニット会議の中で意見を聞くようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議の資料にも意見を記入するスペースを作っている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時も苦情相談窓口の案内を行っているが、玄関にも苦情窓口を明確にし掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	会議室に常駐しており、自ら現場に足を運び、職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月のホーム会議後のユニット会に参加し、意見や提案を聞いている。			○	

愛媛県グループホームきららハウスアイリス

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	入社時の研修で外部評価について、外部評価の項目の説明を行い、サービス評価の意義や目的を理解している。				今回の調査が、事業所として初めての外部評価である。職員には入社時に、外部評価をテーマに取り上げて研修会を実施している。利用者家族・地域アンケートを実施する際に、事前に事業所では、家族や地域住民に対して外部評価について説明し、協力を呼びかけている。また、運営推進会議などを活用して、外部評価の結果報告する場合には、利用者や家族、地域の参加メンバーに分かりやすく報告できるよう、簡潔にまとめたものを作成して、配布の上で説明を行うなど、工夫して報告できることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	今回の評価を通して、事業所の現状や課題を明らかにし、意識統一や学習をしていく。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	今回の結果を踏まえて、実現可能な目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組んでいく予定。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	今回の評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしていただく予定。	△	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認する。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルがあり、玄関とスタッフコーナーに設置し、いつでも見られるようにしている。				事業所では、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。管理者は、地元の消防団に加入しているほか、事業所の隣家の住民は、市消防団の副団長をされており、協力体制を取りやすい環境にある。火事などの災害発生時には近隣住民に連絡できるよう協力依頼をしているものの、災害時等の地域住民との連携の話し合いや合同訓練の実施にまでは至っていない。また、コロナ禍の収束後には、運営推進会議などを活用して、地域住民を含めた災害について話し合う機会を設けたり、地域の防災訓練に参加して協力体制を呼びかけたりするなどの取組みを期待したい。さらに、事業所として、県の原子力防災訓練にも参加し、実際に松山市まで避難する訓練にも協力している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	8月に日中の火災を想定した避難訓練を行った。10月には原子力災害を想定した県の避難訓練に参加し、松山まで避難した。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は業者へ委託し定期的に点検している。備蓄の食糧についても点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	8月には消防署員に来ていただき、避難訓練を行った。地域住民や他事業所と合同訓練や話し合う機会などは確保できていない。	○	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	県が行った原子力災害の避難訓練に参加し、松山のパートナーハウスかとれあまで避難を行った。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けた情報発信として、運営推進会議で運営報告を行っている。その他の取り組みは出ていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	施設見学に来られた際に相談を受ける事はあるが、地域の高齢者や認知症の人の相談支援取り組みまでは出ていない。		×	△	事業所として、地域住民からの相談をまだ受けたことはない。事業所では地域密着型サービス協会に加入しているほか、市内の連絡会議にも参画している。現在のコロナ禍において、事業所から地域へ情報発信などを行っていないものの、管理者等は、「今後、認知症カフェを開催したい」と考えており、地域住民や関係者に呼びかけながら、開催が実現できることを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	事業所を開放、活用し、地域の交流の場、秋祭りの練り宿とし活用する事を前提に設計しており、コロナウイルスが終息すれば、積極的に地域交流していきたい。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	連絡があれば受け入れる予定。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	市内の地域密着型サービス事業者が集まる連絡会議に参加している。			△	